

マインドフルネスを生きる

ブッダの幸せの瞑想 第二版

ティク・ナット・ハン著

仏教界のリーダー的存在として世界に知られるベトナムの禅僧、ティク・ナット・ハン氏が仏教徒コミュニティ（プラムヴィレッジ）で伝えてきた実践を紹介する。2013年に刊行された翻訳を全面的に見直し、最新の実践を反映した第2版だ。

プラムヴィレッジの実践の柱となっているのは、五つのマインドフルネス・トレーニング。これは、著者が釈尊の教え「四聖諦」や「八正道」を解釈した五つ

の方法とその意味を提示している。語り掛けるような文体で、心穏やかに慈しみや平和の心を持って、日々を過ごすために傍らに置いておきたい一冊。

本書は呼吸、座る、歩く、食べるといった普段の生活の中でできるマインドフルに至るための具体的な方法とその意味を提示している。語り掛けるような文体で、心穏やかに慈しみや平和の心を持って、日々を過ごすために傍らに置いておきたい一冊。

本体価格1800円、サンガ（電話03・6273・2181）刊。

ブッダの幸せの瞑想

【第二版】



キリスト教台頭の背景探る

越境する宗教

モンゴルの福音派

滝澤 克彦著

宗教学者・モンゴル研究の著者が、民主化後のモンゴルでキリスト教が流行している理由を、現状と歴史から丁寧に解きほぐす。モンゴルでは、70年近く

にわたる社会主義体制下で反宗教政策がとられてきた。民主化によってもたらされた宗教の自由化は、ひそかに維持されてきた仏教の復活だけでなく、国外から流入したキリスト教の台頭をもたらし、特に最大勢力であるプロテスタント系の福音派は、全人口の

約3%にも及ぶとされる。著者は「単純に社会主義の後で現れた『新しい』『外国の』宗教としてとらえられるようなものではなく、それ自体に、モンゴルの過去と現在が織り込まれた複雑な状況が映し出されている」と、福音派の信仰の在り方を表現する。

例えば現地の福音派の間では、「キリスト教は宗教ではない」という認識が広く共有されているという。その背景には「宗教」概念が仏教と「民族」とに深く結び付けられてきた歴史があることを提示し、「宗教」ではないことが「民族」を放棄せずに改宗を可能とするために機能する「こと」を明らかにする。

モンゴルの民主化とキリスト教



最新研究から門流形成示す

シリ

本書は、以降各門の最新の研究を踏まえて、第一

では、河・甲蔵・佐藤・広げ信た実態が確信本尊が本尊の

日蓮教団の成立と展開

3